

①阪急茨木市駅・JR茨木駅周辺地区

○拠点形成の方向性

・全市を対象とした行政、交流、文化、高齢者福祉、教育、商業など市の中心核としてふさわしい高度な都市機能が集積する拠点の形成を図る。

○地区の特性

地区の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阪急茨木市駅とJR茨木駅の都市拠点が重なりあって形成</li> <li>・両駅の間を基本に中心市街地を形成しており、市役所や商業・業務施設が立地</li> <li>・中心市街地を含めた地区内に住宅が立地、大学や元茨木川緑地などの地域資源も存在</li> <li>・市内各方面へ幹線道路が整備</li> <li>・阪急茨木市駅西口、JR茨木駅西口においては、市街地再開発事業を検討中</li> </ul>
-------	---

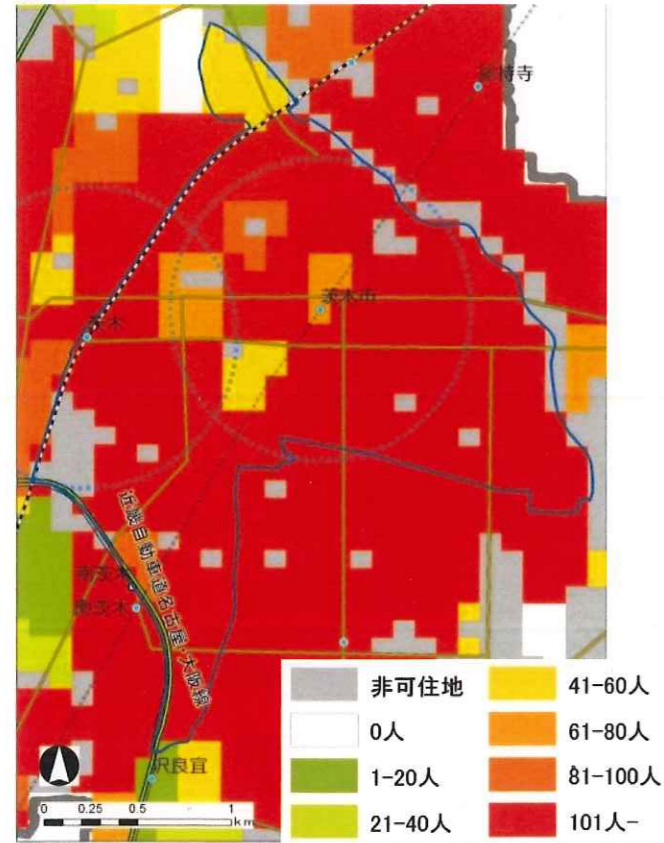
○都市機能配置にかかる現状、課題と都市機能配置及び区域設定の方針

分野	現状	将来の見通し	課題	都市機能配置の方針	区域設定	
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援総合センターが立地</li> <li>・幼稚園、保育所、認定こども園が立地</li> </ul>	<p><b>総人口密度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区の人口密度は、2010年時点で大部分が101人/ha以上となっており、2040年においても、概ね同程度を維持する見込み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も施設は需要量に対応できる見込み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の施設の維持を基本としつつ、ニーズの変化への対応が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の施設量を維持しつつ、都市機能を維持・増進 ※来年度担当部署が見直しを行う次世代育成支援行動計画と連携し、誘導施設の位置付けを調整</li> <li>・次世代育成支援行動計画との整合を図りながら、必要により誘導区域・誘導施設を指定することで、サービス水準を確保</li> </ul>	維持・増進区域を設定 図①-A
教育・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉文化会館、大学が立地</li> <li>・図書館、コミュニティセンター、公民館が立地</li> <li>・平成27年市民会館が閉館</li> </ul>	<p><b>子育て世代人口密度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2010年から2040年にかけて、地区の子育て世代人口密度は減少しほとんどの区域で40人/ha以下になる見込み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も既存の施設で対応できる見込み</li> <li>・市民会館が閉館したことから、新たな市の文化発信拠点となる施設のニーズが高まる可能性有り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の施設の維持が必要</li> <li>・必要性について検討が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存教育・文化施設は施設量及びサービス水準を維持・増進</li> <li>・必要により計画を見直し、誘導区域・誘導施設を指定することで、サービス水準を確保</li> <li>・必要に応じて、文化・交流の中心となるような施設を誘導施設として位置づけ</li> </ul>	維持・増進区域を設定 図①-A  誘導区域を設定 図①-B
福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターが立地</li> <li>・福祉施設（通所型）が立地</li> <li>・高齢者活動支援センター（シニアプラザ茨木）が、拠点の圏域周辺に立地し、バスでアクセス可能</li> </ul>	<p><b>高齢者人口密度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者人口密度は逆に増加し、一部の区域で101人/ha以上になる見込み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、高齢者の増加等により、福祉サービスにかかるニーズが高まる可能性有り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の施設の維持を基本としつつ、ニーズの変化への対応が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点では、施設量及びサービス水準を維持・増進 ※来年度担当部署が見直しを行う総合保健福祉計画と連携し、誘導施設の位置付けを調整</li> <li>・必要により計画を見直し、誘導区域・誘導施設を指定することで、サービス水準を確保</li> </ul>	維持・増進区域を設定 図①-A
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院（二次救急医療施設）、診療所が立地</li> </ul>	<p><b>高齢者人口密度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者人口密度は逆に増加し、一部の区域で101人/ha以上になる見込み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も既存の施設で対応できる見込み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の施設の維持が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点では、現状の施設量で対応可能なため、施設量及びサービス水準を維持・増進</li> <li>・必要により計画を見直し、誘導区域・誘導施設を指定することで、サービス水準を確保</li> </ul>	維持・増進区域を設定 図①-A
商業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合スーパー、スーパー（床面積500㎡以上）が立地</li> </ul>	<p><b>高齢者人口密度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者人口密度は逆に増加し、一部の区域で101人/ha以上になる見込み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も既存の施設で対応できる見込み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の施設の維持が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点では、現状の施設量で対応可能なため、施設量及びサービス水準を維持・増進</li> <li>・必要により計画を見直し、誘導区域・誘導施設を指定することで、サービス水準を確保</li> </ul>	維持・増進区域を設定 図①-C
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阪急茨木市駅は特急、JR茨木駅は快速が停車し、大阪・京都方面への交通利便性も良く、市の玄関口として機能</li> <li>・両駅ともにバスターミナルとして市内の各拠点や周辺市へのアクセスが可能</li> <li>・駅から主要施設までの交通環境の向上や、交通結節点の機能強化を目的に、駅周辺をバリアフリー重点整備地区に指定</li> </ul>					

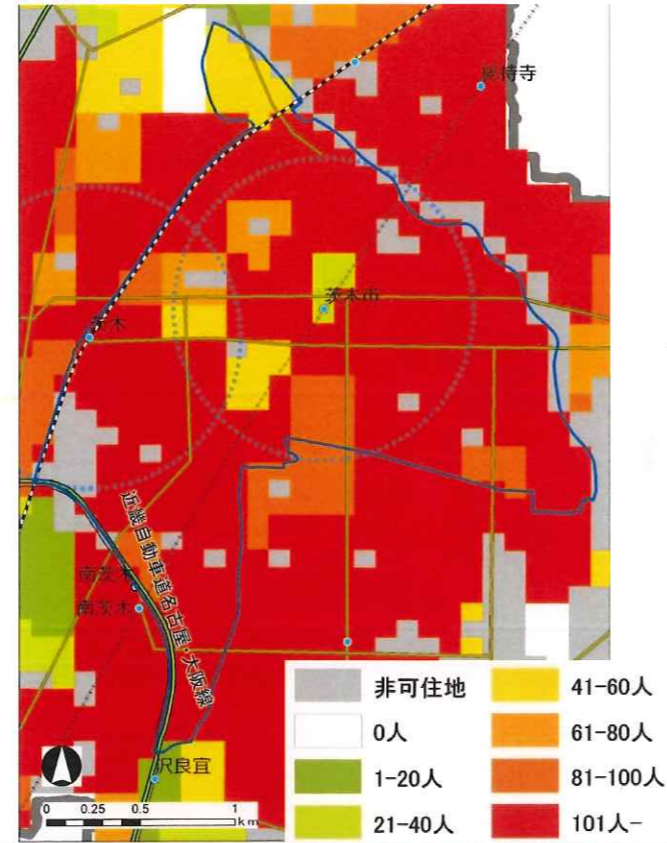
※図①-Aは、同区域です。

総人口密度

2010年

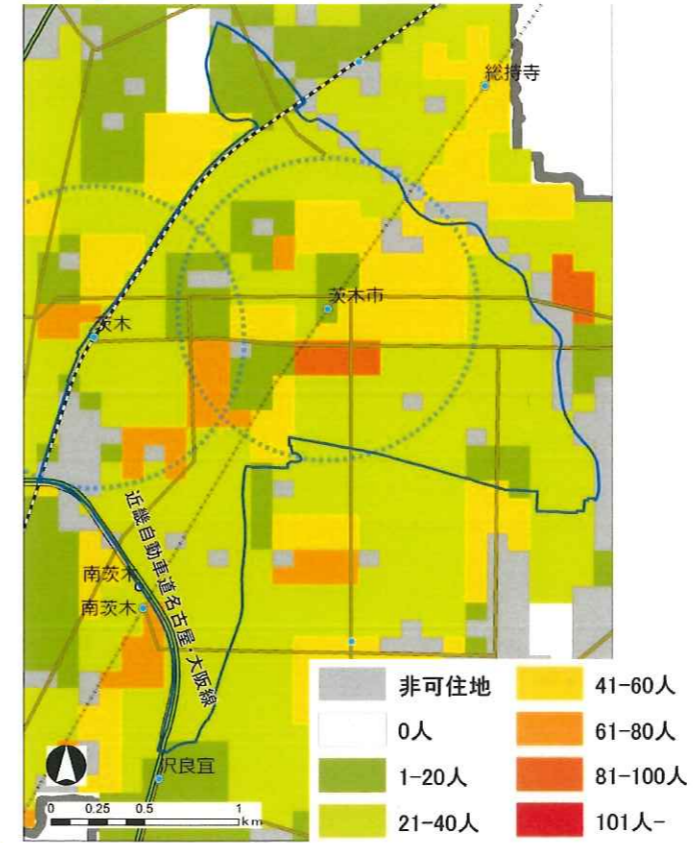


2040年

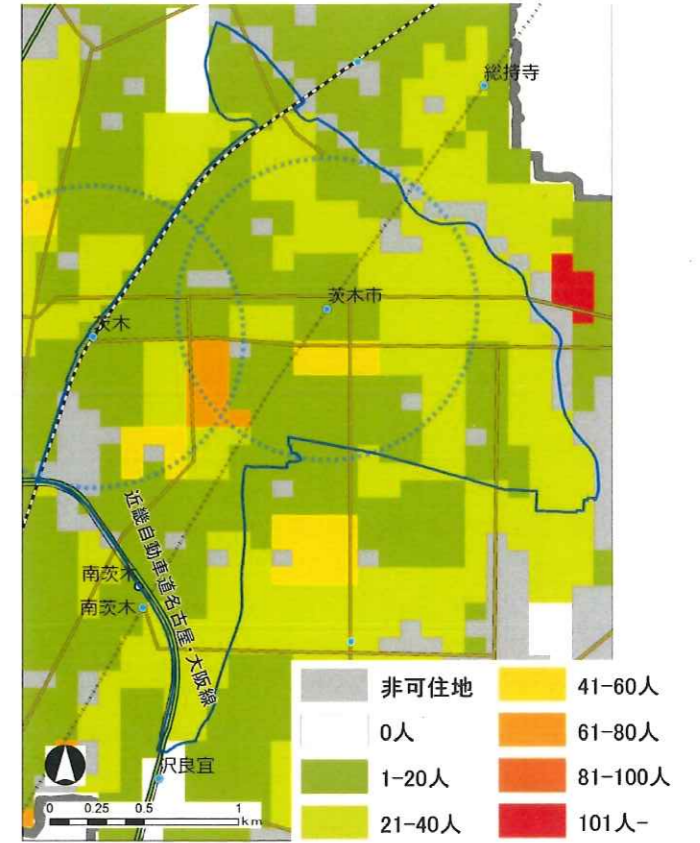


子育て世代(25-39歳)人口密度

2010年

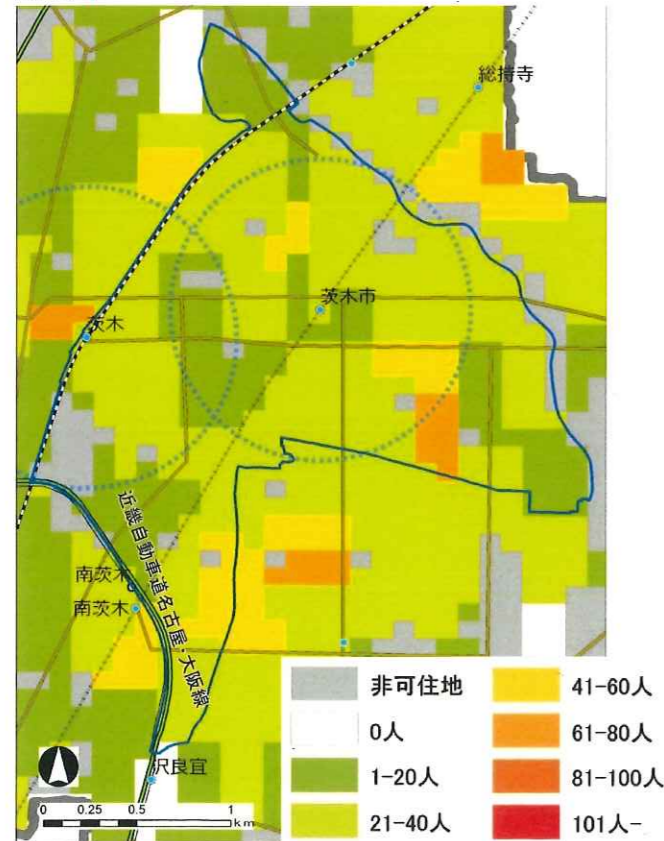


2040年

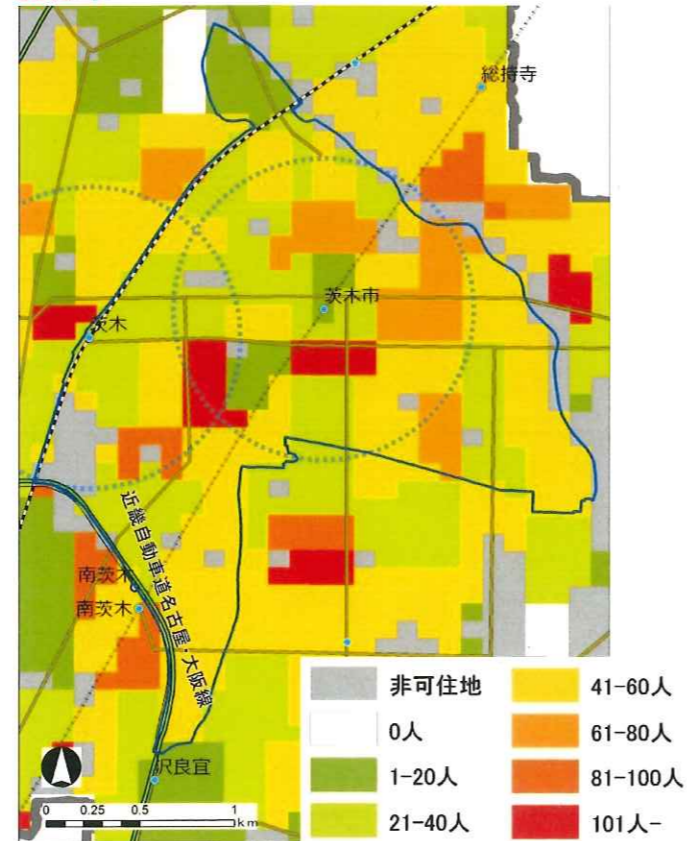


高齢者人口密度

2010年

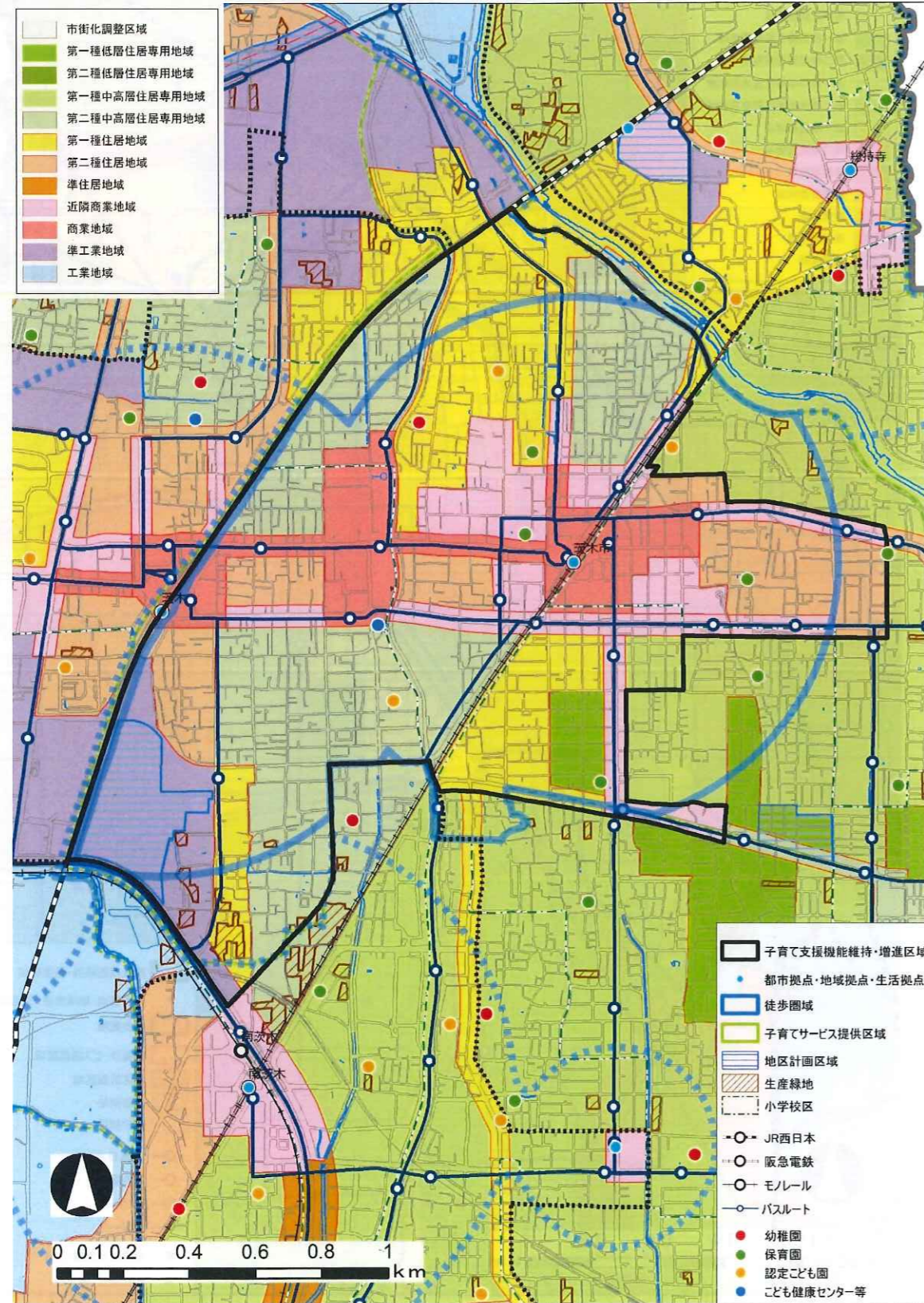


2040年



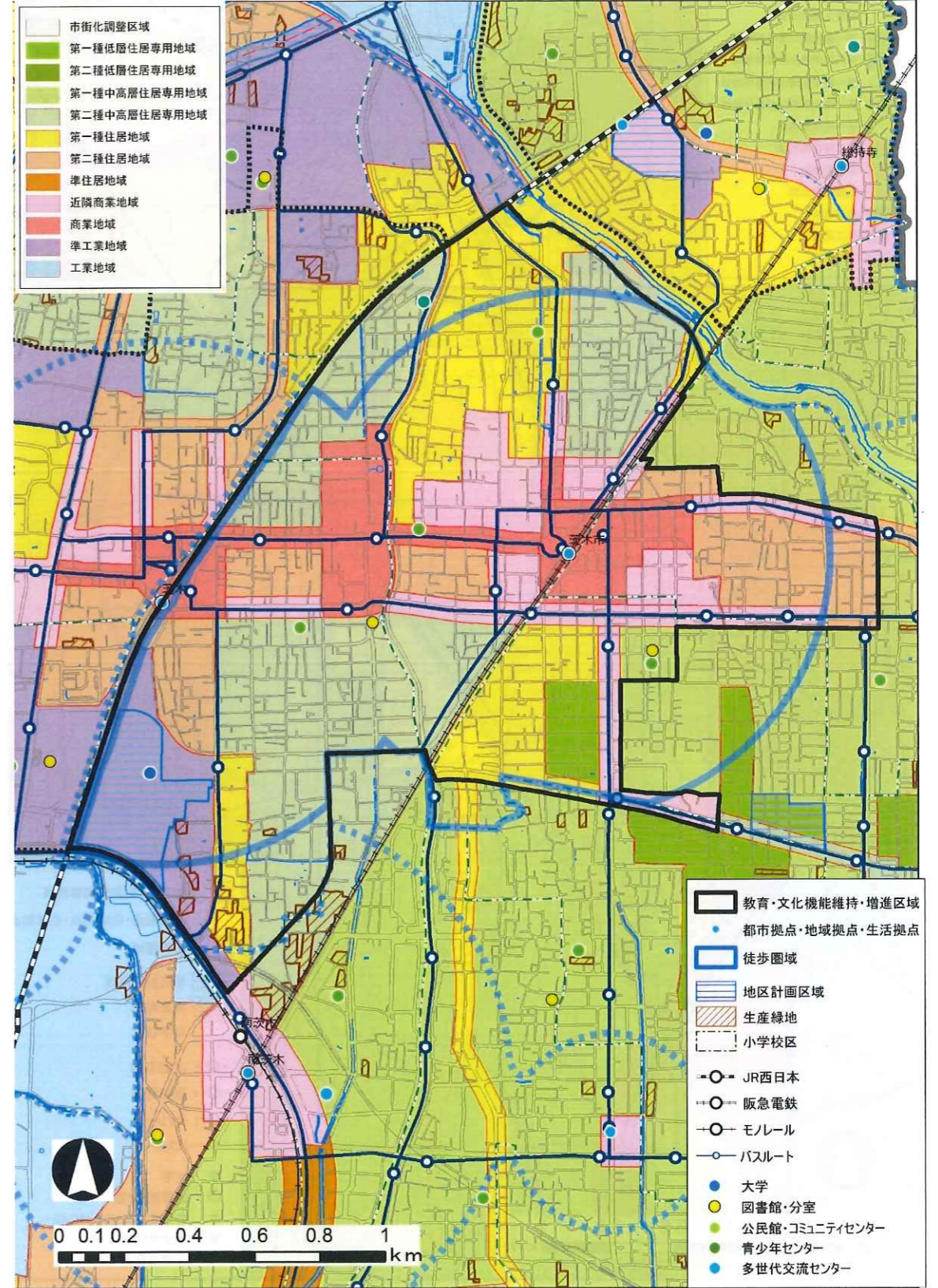
<子育て支援機能維持・増進区域>

図1-A



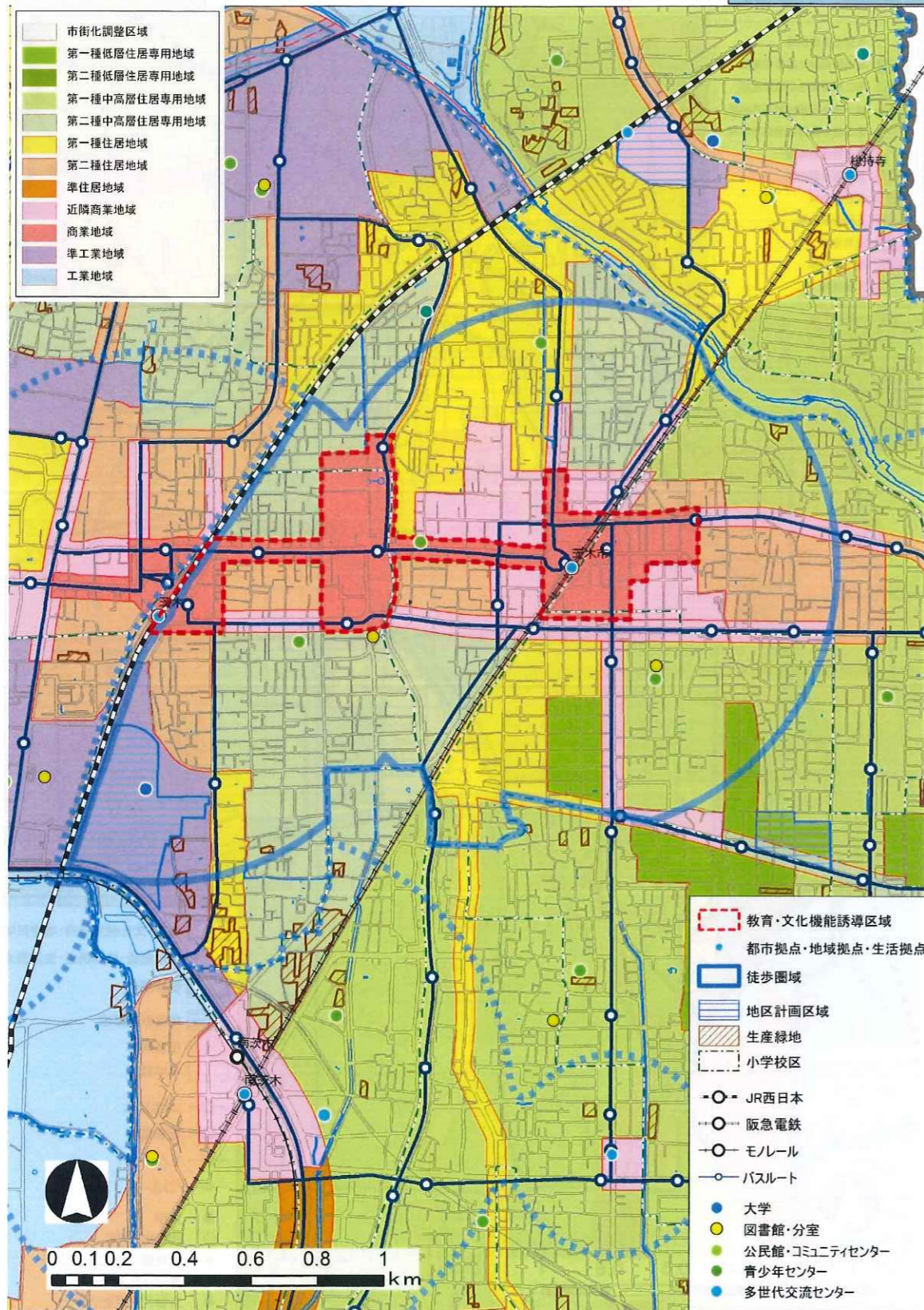
<教育・文化機能維持・増進区域>

図1-A



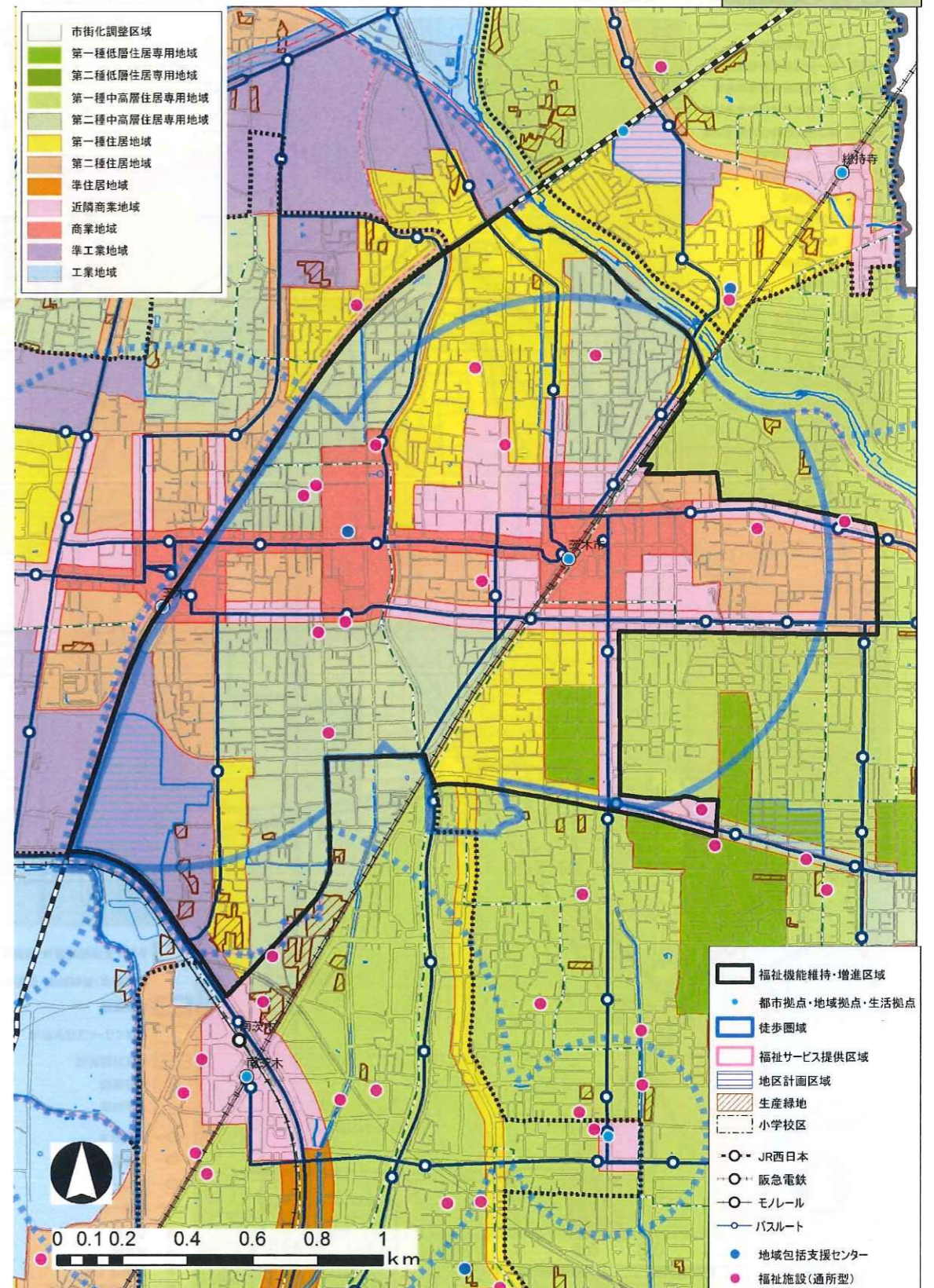
<教育・文化機能誘導区域>

図1-B



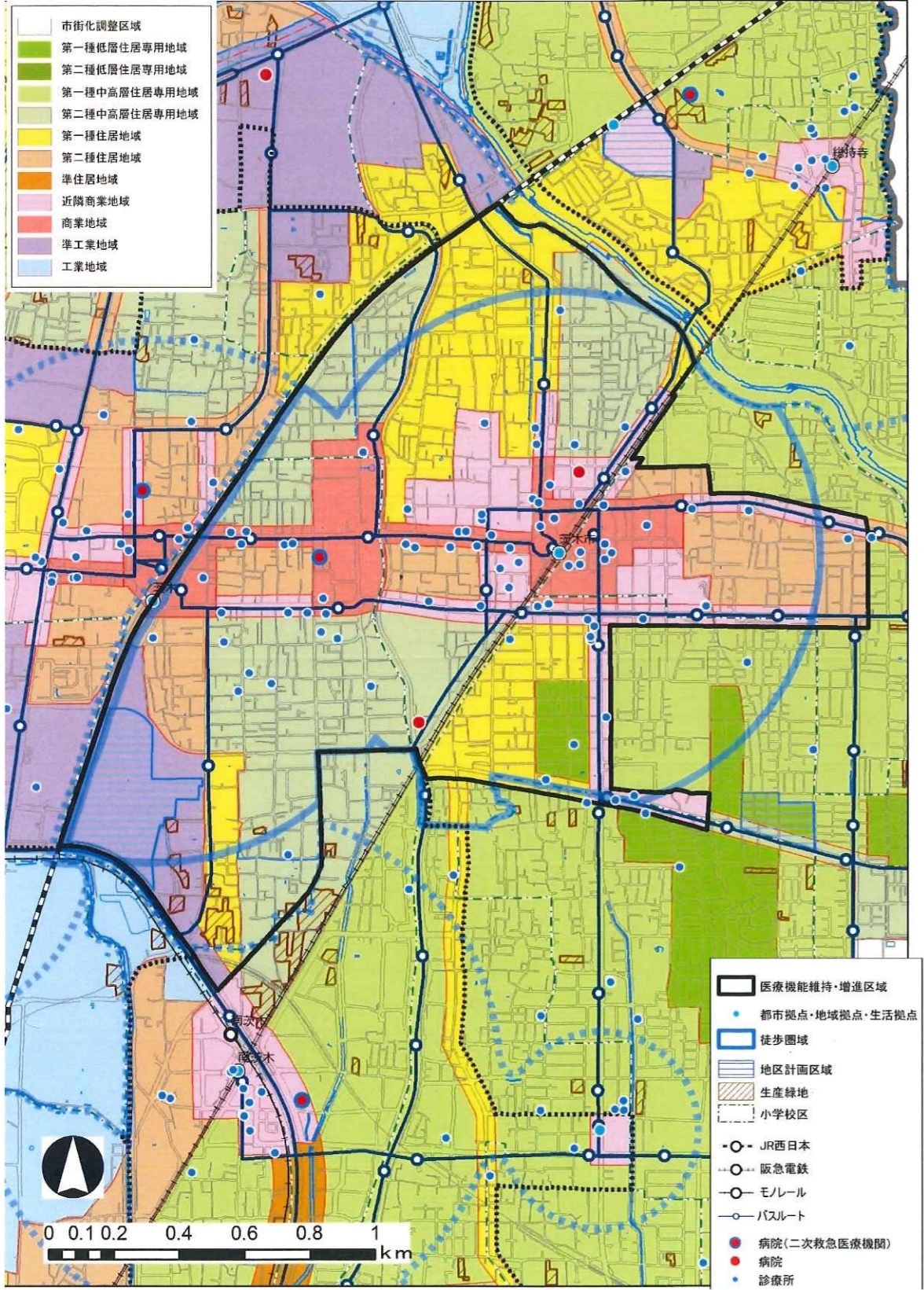
<福祉機能維持・増進区域>

図1-A



<医療機能維持・増進区域>

図1-A



<商業機能維持・増進区域>

図1-C

